

JAPAN/ICOMOS INFORMATION

第2期 第2号

平成2年1月8日 発行
(90)

諸報告

◎ 1989年度第3回理事会

日時：1989年（平成元年）12月9日（土）午前10時～午後1時30分

会場：学士会館（神田）308号室

出席者：坪井委員長、石沢、稲垣、伊藤（延）、石井、木原の各理事
議 事

I 報告事項

1) イコモス諮問委員会総会報告

坪井委員長 1989年11月9日/10日、於パリ・イコモス本部

①アジア太平洋地域から日本・スリランカのみ出席。

②1993年スリランカでイコモス総会開催予定

③各ブロック報告；アジア地区とりまとめをスリランカ委員長のローランド・シルバ博士が担当

2) 執行委員会会議報告

伊藤延男理事 1989年11月11日、於パリ・イコモス本部

（報告詳細は後記参照）

3) 庶務報告

①ローランド・シルバ博士のイコモス国際委員会副委員長立候補の推薦電報および推薦書信の送付。1989年9月19日に、アジア太平洋地区として日本イコモス国内委員会が推薦。

②伊藤延男理事の執行委員任期満了につき、再選のための推薦電報と推薦書信を1989年11月6日送付。

③11月12日、第3回理事会開催通知発送。

4) 広報報告

①JAPAN/ICOMOS INFORMATION 第2期第1号の発行および送付。益田兼房委員の協力があった。

5) 事業報告

事務局の移転について；10月25日午前10時に、稲垣理事が石沢理事とともに、

東京都新宿区の高田馬場駅徒歩10分のところにある文化財工学研究所を訪問した、その状況を報告。

6) 会計報告

①一般会計

〈1〉 前回理事会（9月17日）において下記を報告した。

期間：89年2月20日-9月11日

繰越・収入計1,120,089円 支出計311,360円 9月11日現在残高808,729円

〈2〉 以後の収支状況は次の通り。

期間：89年9月12日-11月28日

収入：イコモス研究振興基金より受入	7,452円
1989年会費・3名(トイカツ、平井聖、青木繁夫)	30,000円
定期預金利息	37,120円
合計	74,572円
支出：庶務担当事務経費	14,282円
理事会会場費	8,396円
委員長出張旅費補助金	300,000円
執行委員出張旅費補助金	50,000円
イコモスインフォメーション2期1号経費	42,136円
関野貞論文印刷費	117,200円
関野貞論文発送費	25,670円
銀行送金手数料	2,472円
合計	560,156円

11月28日現在残高 323,145円

②下記の2名の委員のかたの氏名についてお心当たりの方は、石井昭会計担当理事までご連絡ください。

(氏名不詳) 銀行口座記載振込者名：「ニホイコモスカナイ」 890606 金額10,000円

銀行口座記載振込者名：「ガク」メジク」 890731 金額10,000円

7) 活動報告

木原啓吉理事が1989年11月12日から同月19日まで、バーミューダで開かれた第5回ナショナル・トラスト国際会議に、「ナショナル・トラストを進める全国の会」の幹事長として出席、日本におけるナショナル・トラスト活動を報告。

II 審議事項

1) 1990年総会の件

日時：1990年1月27日（土）午後3時30分～5時

会場：プレス・センタービル9階日本記者クラブ、で開催と決定。

2) 新規会員候補の件

伊藤延男理事から、文化財建造物保存事業の専門家84名に入会を呼びかける提案があり、了承された。また、稲垣栄三理事から、10名程度の入会推薦をいたしたい旨の発言があり、入会を呼びかけることが了承された。

3) 役員の増員について

国内委員会の会員が97名に達したので、活動を活発にするため、現在9名の役員を増員する件について種々検討を行った。数名の役員候補を選び、1990年総会に提案することとなった。

4) 事務局の移転の件

事務局の移転先について三ヶ所の候補を挙げて検討してきたが、10月25日移転折衝のため訪問した文化財工学研究所(高田馬場駅近く)が最も適当であるとの結論に達し、移転及び事務局体制等にかかわる細かいお願いをすることとなった。

5) その他

①法人会員の件について、審議未了。

②国際エコモス・カードの有効性について、審議未了。

◎ 「エコモス第41回執行委員会 に出席して」

エコモス本部執行委員 伊藤延男

1989年11月11日開催された上記執行委員会に委員として出席したので、その概要を報告します。ちなみに、この委員会の前、11月9日及び10日には、各国内委員長で構成された諮問委員会が開催されており、日本から坪井委員長が出席されています。両委員会の議事には重複するところも多いかとおもわれるが、小生は、9、10日両日はイクロムの財政・事業委員会に出席していて、坪井委員長と面談の機会がなかったので、ここでは重複をいとわずに記録しておくこととします。

執行委員会は、執行委員とその協力委員ならびに会長、副会長、事務局長、会計主任からなるビューローメンバーによって構成されています。今回は総計20名の出席があり、出席率は良かったとおもいます。会は会長が議長となって進められました。

議事のうち主なものをあげると、つぎの通りであります。

* ドキュメンテーション・センターの資金集めが必要との意見がでました。これに対し、ゲティ基金の協力が可能であるとの示唆や、金集めは特定のトピック(木とか石とか)についておこなわないと効果がない等の意見が出ました。

* 事務局より、諮問委員会が採択した多数の決議、勧告が披露されました。会

長は、これらは執行委員会に提出されたのであるからつぎつぎに実行せねばならず、特に情報資料関係の強化が緊急であると述べ、ワーキング・グループの設置を求めました。しかし多くの委員からは、手順としてまずビューローで問題点を整理し、順位を付けて、この執行委員会に提出すべきであるとの意見が出され、そのように決定されました。

* 「考古学マネジメント特別委員会」委員長ビュームスタット女史他1名が呼び入れられ、「考古学遺産の保護とマネジメントのための憲章」の最終草案が提出されました。既に特別委員会で4、5年検討され、昨年秋にはストックホルムでの会合において討議され、さらに500の研究機関に回付されているという。不勉強にして、小生はそのような経過があったことは知らず、初めて草案を見た次第ですが、ともかく執行委員会はこれを受理し、次期総会に付することとしました。

* 1990年10月6日から11日まで、スイスのローザンヌで開催される第9回総会のスケジュール案が提出されました。討論は事務的事項のほか、特に、総会時に行われるシンポジウムに会員以外も呼ぶべきか否かという点に集中しました。会長は閉鎖的な方向に傾いたが、結局はなるべくオープンにすることとし、呼び掛けを遺漏なくすることになりました。

* 前期決議・勧告の取扱いといい、このシンポジウムの扱いといい、会長の裁きは決して明快ではなく、将来に不安を残すようです。

* 事務局長は、いくつかの国で国内委員会が発足し、または個人会員が承認されたと報告しました。アジアでは、タイのディスクル殿下が個人会員となった。しかしフィリピンやインドネシアはまだ進展していない、と報ぜられました。この点でローランド・シルバ氏の補足説明がありました。

* 1990年のイコモス全体の会議スケジュールが提案され、一部修正して可決されました。それによると、執行委員会は1990年には6月20日、10月5日、及び11日に開催されます。もっとも、最後の会議は新委員によるものとなります。

* 執行委員会の決定事項は直ちにタイプされ、可決されました。

以上

付記 : カナダのストーベル氏から、イコモスでは現在民家の保存のための憲章を検討中であり、また農村の保存憲章の案が提出されているが、民家特別委員会ではこれらを統合したいので、小生に連絡委員になってほしいとの依頼を受けました。小生の専門領域であるので、応諾しました。

: 小生の次期執行委員立候補の手続きは、本部で受理され、支障なく取り進められています。

(1989年11月13日記)

以上